

7-11

褥瘡難治例を経験して

チームの連携についての考察

褥瘡改善

職員連携

社会福祉法人 芳洋会 日の出ホーム

ケアワーカー 福田 英男	共同研究者 佐藤 森谷 伊藤 大和田 浜田 豊田
東京都西多摩郡日の出町平井 3076 番地	
TEL : 042-597-2021	E-mail : info@hinode-home.or.jp
FAX : 042-597-1973	URL : www.hinode-home.or.jp/

介護老人福祉施設 200 床、併設の在宅サービスセンターひので理想郷の園定員 40 名、デイサービスセンターサンライズ平井っ原定員 15 名、SS15 床、居宅介護支援事業所、訪問介護、訪問介護員養成研修事業の 7 事業を運営。法人理念「安心と充実の人生を一緒に」を掲げ、サービスの提供を目指している。

〈取り組んだ課題〉

- I. 褥瘡予防・計画書の作成
- II. 多職種連携による問題因子の抽出・アセスメント
- III. 治癒に向けた具体的な取り組み

〈具体的な取り組み〉

- I. 1. 褥瘡難治一事例についてさらなる会議の場を設ける。
2. 褥瘡対策委員会を中心に、褥瘡予防計画書を立案し、その中で見えにくかった問題をシーティング研究会を始め、多職種に協力を求め本格的に問題改善に向けて連動させる。
- II. 1. 褥瘡に対する正しい知識の把握の為に、勉強会を開催。また、毎週褥瘡経過の写真を掲示し職員の現状の把握を行い、褥瘡に対する意識の向上を図る。
2. 生活範囲・生活活動・メンタル面への配慮。
- III. 1. シーティングの取り組み
日本医療科学大学木之瀬教授によるシーティング相談を実施。
 - ・シーティングアセスメント・圧力測定を実施し、車いす・クッションの変更をする。
2. ハード面の検討
 - ・ベッドの位置・マットレスの変更
3. 栄養改善
 - ・本人の嗜好に合わせた栄養補助食品の提供を行い、栄養面での改善を行う。

4. 業務改善

- ・排泄介助を増やす・入浴介助を増やす・座位時間の検討

活動の成果と評価〉

- I. 様々な職種が連携し、情報発信・改善策を実践する事で褥瘡は完治された。
- II. プレーデンスケールと褥瘡予防計画書の有効活用
- III. 発症前と同様のアクティビティーの活動化
- IV. 職員の意識レベルの向上
- V. 改善への取り組みの過程で「心のケア」にも注目。
- VI. 褥瘡完治へ向けて本格的に始動し、短期間で改善した。理由は、以下の 4 点と考えられる。
 1. 褥瘡の原因を広範囲から抽出
 2. 原因の絞り込み
 3. その原因を早期に除去する連携
 4. 正しい情報の共有
- VII. 施設利用者はすでに多くの疾患を有しており、褥瘡要因も単一ではない。今回本事例を通して問題を多角的に捉える技術を共有する事を学んだ。

〈今後の課題〉

- I. 予防に向けた取り組み
- II. 再発の防止／心のケア／QOL の向上／早期発見と早期解決
- III. 職員のモチベーション維持

【メモ欄】